

観光社会資本の事例

テーマ	荒川の歴史を語る旧岩淵水門と、さまざまな荒川に出会える荒川知水資料館	
【施設の状況写真】		
		<p>荒川知水資料館(通称amo a)は、平成10年3月に完成した施設です。荒川放水路改修の歴史を紹介し、荒川に関する教育、交流の場として、市民の方々に広く活用されています。</p>
<p>旧岩淵水門は、「荒川放水路事業」の一部として、隅田川との分派点に設けられ大正13年に完成した水門。「新岩淵水門」完成と共にその役割を終え、現在は都選定歴史的建造物として、北区の河川公園の一部、通称「赤水門」として地域に親しまれています。</p>		
【施設の利用写真】		
		<p>広報員による来館者への説明状況。来館者は、環境学習の小中学校生のみならず、流域市区町より多数の来館者があります。</p>
<p>毎年4月上旬には、旧岩淵水門周辺で「北区桜まつり」が開催され、多数の区民の方々が旧岩淵水門周辺にあつまってきます。</p>		
【観光資源としての利用状況】		
<p>旧岩淵水門は、「荒川放水路事業」の一部として、隅田川との分派点に設けられ、大正13年に完成した施設です。昭和58年の新岩淵水門完成とともにその役割を終え、現在は、東京都選定歴史的建造物として、東京都北区の河川公園の一部、通称「赤水門」として地域に親しまれています。また、荒川知水資料館(通称amo a)は、荒川下流域を管轄する荒川下流河川事務所に隣接し、岩淵水門を望む場所に平成10年3月に開館した施設です。</p>		
<p>当施設は、隣接する旧岩淵水門とともに荒川放水路改修の歴史を伝えるだけに及ばず、荒川をつかった環境教育の場、地域の方々が交流しながら荒川に触れることができる参加体験の場として、様々な利用をしていただけるよう、施設の整備、ワークショップの開催をしています。</p>		

テーマ	荒川の歴史を語る旧岩淵水門と、さまざまな荒川に出会える荒川知水資料館
【社会資本の基礎データ】	
名称	旧岩淵水門、荒川知水資料館
所在地	東京都北区志茂5丁目地先
事業主体	旧岩淵水門:国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所 荒川知水資料館:国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所、北区
完成	旧岩淵水門:大正13年、荒川知水資料館:平成10年
【社会資本の役割・効果】	
歴史効果	
「旧岩淵水門」は、この「荒川放水路事業」の一部として大正5年に工事着手され同13年に完成し、昭和58年に完成した「新岩淵水門」にその役目をとってかわられるまで、治水施設として活躍してきました。現在は、東京都選定歴史的建造物として、東京都北区の河川公園の一部、通称赤水門として地域に親しまれています。	
教育効果	
「荒川知水資料館(通称 amoa)」は、隣接する旧岩淵水門とともに荒川改修の歴史を伝えるのみならず、荒川周辺の改修による変遷や自然環境の移り変わりなど、現在に至るまでの荒川を伝える施設として、又、環境教育の場、地域交流の場を設け、広く流域市区町の方々に荒川に親しんでいただく場を提供しています。	
【位置図】	
【関連ホームページ】 荒川知水資料館関係 http:// www.ara.or.jp/	